重症感染症などのアウトブレイク対応強化のための実地疫学（管理者向け）
Field Epidemiology to strengthen the preparedness for the severe infectious disease outbreaks(for Managers)

継続

対象国の条件：ウィルス性出血熱など重症感染症の発生・流行の可能性の高い国

研修コース番号：201984910-J002

案件番号：201984910

主分野課題：保健医療/その他感染症

副分野課題：

使用言語：英語

案件概要

特に重症感染症のアウトブレイク対応能力の強化を図るため、実地疫学における（１）アウトブレイクの存在確認、（２）効果的な感染対策（感染源対策、感染経路対策、感受性者対策等）の実施、（３）アウトブレイクの概要把握のための疫学調査（記述疫学）、（４）感染リスク評価のための疫学調査（解析疫学）、（５）仮説以外の機序の発症考察、（６）再発防止策の検討、について講義、実習、ディスカッションを通じて理解する。

目標／成果

【案件目標】
自国における重症感染症のサーベイランスシステムの課題を抽出し、迅速かつ的確にアウトブレイクの実態を把握し効果的な対応（封じ込め、診断・治療）につなげるための体制強化に向けた具体案が検討され、アクションプランとして取りまとめられる。

【成果】
①感染症対策におけるアウトブレイク対策総論と国際保健規則（IHR）順守の重要性について理解する。
②実地疫学の基礎について、特に感染対策に重点を置いて理解する。
③感染症サーベイランスの基礎について理解する。
④アウトブレイク調査手法の基礎について理解する。
⑤ケーススタディ（鳥インフルエンザ、エボラ出血熱等）を通じて様々な感染症のアウトブレイク対策を理解する。
⑥日本の感染症サーベイランスシステム（制度面、自治体の役割や活動を含む）の全容について理解する。
⑦上記①～⑥を基に自国におけるサーベイランスシステム強化、アウトブレイク対応強化（特に封じ込め、診断・治療体制整備等）に結びつける方法を検討する。
⑧帰国後におけるサーベイランスシステム強化、アウトブレイク対応強化に向けた具体的な対策案がアクションプランとして作成される。

対象組織／人材

【対象組織】
保健省（公衆衛生ラボ含む）、地方自治体

【対象人材】
・国または地方自治体において、感染症対策業務に従事している者
・感染症対策業務に従事する医師、獣医師等
・マネジメントレベル／10～15年

内　容

【事前活動】
・自国における実地疫学を含むサーベイランスシステムに係る課題のレビュー
・カントリーレポートの作成
【本邦研修】
・カントリーレポート発表
・感染症対策と国際健康安全保障に係る潮流、サーベイランス、実地疫学の基礎に係る講義及び実習（事例やケーススタディには薬剤耐性、人獣共通感染症などを含む。）
・日本の感染症サーベイランスシステムの概要に係る講義
・日本の地方自治体の役割と活動の紹介（BSL4施設などの視察を含む）
・アクションプラン作成

本邦研修期間	2020/2～2020/3
担当課題部	人間開発部
所管国内機関	JICA九州
関係省庁	厚生労働省
実施年度	2017～2019

主要協力機関	国立病院機構熊本医療センター 国立病院気候　熊本医療センター、国立感染症研究所　他
特記事項及びホームページ	